

不退転の信心

私達は、初めて正法に巡り会った時、ありがたい気持ちと敬虔な心を抱き、御授戒に臨んだと思います。その御授戒の時に、私達は何を御本尊にお誓いしたのでしょうか。第一に「生涯に亘って日蓮正宗の正法正師の正義を信じ修行すること」第二に「生涯に亘って本門の三大秘法に帰依し、守り続けること」第三に「生涯に亘って日蓮正宗の戒律を持ち、嘘偽りなく信心修行に励むこと」の三つ戒を守ることを御本尊にお誓いしたのであります。これら三つの戒は、言葉を換えれば、不退転の信心を貫くことをお誓いしたことになるのであります。

そして、この御授戒によって「金剛宝器戒」を授けられ、本門戒壇の大御本尊への信行を許されるのであり、生涯にわたって日蓮大聖人の正法正義を受持信行していくことを固く決意し、それを誓ったのであります。

日蓮大聖人は、『御講聞書』に、

水の如きの行者と申すは、水は昼夜不退に流るゝなり。少しもやむ事なし。其の如く法華経を信ずるを水の行者とは申すなり。(御書1856頁)

と仰せの如く、日蓮正宗僧俗は、始めも中程も終わりも不退転の信心、水の流れのような清らかな信心の持続をもって精進することが大事なのであります。

しかし、世の中には様々な宗教や教えがあり、また四苦八苦の人生の中で、御本尊にお誓いした決意を揺るがすような悪縁や魔の用きが起こってくるのであります。

日蓮大聖人は、『松野殿御返事』の中で

菩提心を発こす人は多けれども退せずして実の道に入る者は少なし。都て凡夫の菩提心は多く悪縁にたぼらかされ、事にふれて移りやすき物なり (御書1048頁)

と御教示のように、入信した時は、どんなことがあっても仏道修行に励んでいこう、成仏を目指して信心に励んでいこう、御本尊様にお仕えさせていただこうと決意するものの、その後、様々な障魔等によって信心から遠ざかってしまう場合が存するのであります。そこで魔に負けぬ信心が求められます。

『聖愚問答抄』には、

愚人頭を低(た)れ手を挙げて云はく、我今よりは一実の経王を受持し、三界の独尊を本師として、今身より仏身に至るまで此の信心敢へて退転すること無けん。(中略) 聖人云はく、人の心は水の器にしたがふが如く、物の性は月の波に動くに似たり。故に汝当座は信ずといふとも後日は必ず翻へさん。魔来たり鬼来たるとも騒乱する事なかれ。夫天魔は仏法をにくむ、外道は内道をきらふ。されば猪の金山を摺り、衆流の海に入り、薪の火を盛んになし、風の求羅をますが如くせば、豈好き事にあらずや。(御書408頁)

と、魔が競い起こった時こそ、心を乱すことなく、魔の仕業をも信心の資糧とする強盛な信心を起こすことが、不退転の信心の要諦であると仰せであります。

では、その不退転の信心はどのようにして培われるのでしょうか。

日蓮大聖人は『立正安国論』に、

謗法を禁むる者は定めて不退の位に登る (御書 247 頁)

と仰せであります。謗法を止めさせる、つまり折伏を行わずることによって、私達的不退転の信心は確固たるものとなるのであります。それは、日蓮大聖人の御一生を拝せば一目瞭然であります。

『開目抄』には、

天もすて給へ、諸難にもあえ、身命を期とせん。(中略) 善に付け悪につけ法華経をすつるは地獄の業なるべし。大願を立てん。日本国の位をゆづらむ、法華経をすて、観経等について後生をごせよ。父母の首を刎ねん、念仏申さずば、なんどの種々の大難出来すとも、智者に我が義やぶられずば用ひじとなり。其の外の大難、風の前の塵なるべし。我日本の柱とならむ、我日本の眼目とならむ、我日本の大船とならむ等とちかいし願やぶるべからず (御書 572 頁)

と仰せであります。たとえ「自分は諸天に見捨てられたのか」と思うほどの大難に遭おうとも、脅されても、おだてられても、意に介さず、「信心を捨てることは地獄の業因である」と誠めて、ただ御本尊を信じて妙法弘通に邁進する。この御本仏日蓮大聖人の御境界に不退転の真髓を拝することができるのであります。

日蓮大聖人は、この三つの大誓願を生涯に亘り不退転に貫かれて、末法の御本仏として一切衆生救済の本懐を遂げられました。すなわち本門戒壇の大御本尊の御建立であります。私達は、日蓮大聖人の身命を賭した衆生救済の大慈悲によって、日々本門戒壇の大御本尊から功德善根を頂戴することができるのであります。

御法主日如上人猊下は、不退転の信心について

最も大事なことは、「須く心を一にして南無妙法蓮華経と我も唱へ、他をも勧めんのみこそ、今生人界の思出なるべき」と仰せのように、地涌の菩薩の眷属としての自覚と一切衆生救済の誓願に立ち、大御本尊への絶対の確信のもと、不退転の決意をもって折伏を行じ、もって自行化他の信心に励むことが肝要となるのであります。

(大日蓮 728 号 34 頁)

と御指南されております。

私達は、この御法主上人猊下の御指南のままに、日々勤行・唱題に励み、その偉大な功德力をもって、日々折伏・育成に邁進することが私達の成仏の直道なのであります。

これからも、不退転の決意を新たにして、2021年宗祖日蓮大聖人御聖誕800年法華講員80万人体勢構築に向けて、本年の折伏誓願目標を達成し、さらには一生成仏と広宣流布を目指して、僧俗一致・異体同心して自行化他の信行に精進して参りましょう。